

### ■■■ 外国人が日本で住むことの壁 ■■■

人が人らしく暮らすためには住宅が必要になります。住宅といっても学生寮から賃貸住宅、持家、KFCが運営するような独居が難しい高齢者のグループホームまで様々な形態がありますが、毎日暮らす場所である住宅は人の生活のベースであり、基本的人権の一部であると思います。

ホームレスやネットカフェで暮らすようになった人が生活を立て直す一歩として住宅の確保をしなければならないのは、就職のための履歴書に現住所を書くにも生活保護の申請をするのにも原則として住宅が必要となるからです。しかし、日本で社会的弱者といわれる人が住宅を確保することは容易でない状況があります。

在日外国人には日本で暮らす上でいろいろな壁がありますが、住宅に関する問題は古くからある壁であり、今もつづいています。この間、私も関わった住まいの問題を皆さんと一緒に考えてもらえればと考え、筆をとりました。

KFCの事業拡大に伴い私にもスタッフの人からいろいろな頼まれごとが舞いこむようになっていきます。そのなかには賃貸住宅の入居保証人になってほしいという依頼もあります。

外国人のスタッフが探してきた住宅の大家さんがたまたま私の知り合いの在日コリアンの人で「あんたが保証人になるんやったら入れたるわ！」というような嬉しいような悲しいような事例があって保証人になったのですが、実はKFCの発足時から住宅の保証人の依頼が来た時は、日本人である現顧問の中村通宏さんをお願いすることがほとんどでした。

阪神・淡路大震災後、家を失ったベトナム人の多くが住宅の相談に来ました。

そのなかでけっこう多かった相談は、自分で住宅を見つけてきたが不動産屋から日本人の保証人を立てることが条件だと言われあてがないのでKFCのほうで頼みたいという相談です。

私はこんな相談が来る度、理屈にあわない外国人への住宅差別に憤慨するのですが、住宅の難しさは同じ物がないということです。ベトナム人がやっと見つけてきた住宅の件で不動産屋や家主に抗議するのは難しいことが現実です。KFCの役員で話しあい、中村さんが保証人の多くを引き受けることになったのです。

そんな風にして契約しても悪質な業者になると日本語が理解できないことにつけこんで設置していない消火器代ややってもいない防虫駆除代を請求したりする事例もあり、その時は私も業者を厳しく懲らしめました。

このようなことは、今にはじまったことではなく一昔前までは、もっとひどい状況で不動産屋に掲示されている賃貸物件情報に「外人不可」と平気で書かれていました。

今は公営住宅の国籍条項がなくなったり、住宅ローンの適用が外国人にも広がるなど住宅に関する状況も少しは改善されましたが、「国際化」、「多文化共生」の言葉があふれる状況を見るとギャップが大きいように感じます。

先日、KFCの外国人スタッフが今の家が狭く、少し広い賃貸住宅を見つけてきたので「理事長、入居保証人になってください」との依頼があり、引き受けることにしたのですが、今までの経験から「僕、外国人だけど大丈夫？」とまず訊きました。この問い返しをする気持ちを伝えるのは難しいのですが、保証人になるのを嫌がっているように捉えられるのも本意じゃないし、外国人の入居には日本人の保証人が当たり前の社会を是認しているように伝わるのも嫌だし、でも無駄足を本人にかけたくもないしという複雑なきもちが入り混じっていたのですが、頼んできたスタッフは、私の複雑な思いを知ってか知らずか「大丈夫です」という返事で不動産屋の保証人

書類をもってきました。

保証人書類には、入居申込者との間柄や勤務歴、職種、年収、持家の有無など個人情報満載の書類で、自分で言うのもなんですがK F Cだけで約20年継続勤務してますし、管理職だしその他の項目もあまりマイナス要素も少ないので大丈夫かと思っていたのです。

しかし、その後不動産屋が日本人の保証人を立てることを条件に伝えてきて、K F Cの日本人理事である別の人に外国人スタッフが保証人を頼み入居することになりました。

外国人が望んだ住宅が見つかり入れたことはいいことかもしれませんが、私はこんなことがあると汚れているのがわかっているのに飲む水がないためその水をコップに入れ飲んでいるような気持ちになります。

上の事例は賃貸住宅ですが、住宅を取得するのも外国人には壁があります。

留学生で日本に来て、K F Cで働くことが法務省の入国管理局から「人文・国際業務」であると認められているスタッフが嬉しいことですが、先日住宅を購入しました。

私が「ローン大丈夫だった？」と訊いたら、「大丈夫でしたけど永住資格がないので80%しか融資してもらえなかったので大変でした」と言いました。

融資審査の基準は私にはわかりませんが、日本ではこれからの少子高齢化に備えて外国人高度人材（私はあまりこの言葉好きではないですが・・・）の受入を進めようと躍起になっています。その職種として「人文・国際業務」があげられているのですが、住宅ローンも満額組めない「高度人材」って何なのかと考えます。

賃貸住宅を確保するのに日本人保証人が必要な外国人、住宅を買うのに大きな自己資金が必要な外国人、従業員の入居保証人にさえなれない外国人、問題の質も内容も違うかもしれませんが日本で住むことの壁です。

私が15歳で捨てた通称名（日本名）で保証人書類を出していたらおそらく入居保証人として認められていたと考えます。そんな風に日本に合わせて生きることが「賢い生き方」かも知れませんが、しかしそんな世間ではなく、「僕、外国人だけど大丈夫？」とも訊かないですむ社会で生きたいと願っているのです。（金 宣 吉）

---

## ■■■K F C日本語プロジェクト■■■

### ◆9月6日研修会+交流会の報告

9月6日午後、文化庁委託事業の一環として研修会「神戸中国帰国者日本語教育ボランティア協会の歴史 1987～現在」+交流会をユニティの和室で行いました。

昨年度に近隣の帰国者支援グループで支援者同士総勢10名が顔を合わせる連絡会を3回持つことができ、1か月半ほど学習記録簿を時系列でつけてもらうこともできました。

今年度はもっと多くの支援者の方同士が交流できればいいと思い、研修会+交流会という形をとりました。合計4教室から19名の参加者を数えました。

研修会の発表者は長陽子さんと根津京子さんでした。内容はユニティ教室の歴史です。70～80年に中国残留邦人の帰国者が増えていく中、市役所にお勤めだった牧野康夫さんを中心メンバーとして1987年に設立されました。行政の範囲内では支援が不十分であると危惧し市民がボランティアで携わっていく精神です。神戸市外国語大学の学生との協力体制、日本語教室を立ち上げた当時の苦労話や震災時の協力、日本語学習以外にも就職や生活の相談、バス旅行、畑活動、パソコン教室、作文発表会など、プラス月々の活動の数々を写真をふんだんに使った話でした。

交流会では円卓に座って自己紹介をしながら活動についての思いを語り合いました。長期間携わっている方も多く、二世代を超える支援や帰国者の家族とのつながりの話も出て、話はつきず、時間は短く、複数の教室の支援者同士の集まりに意義を感じた会でした。

## ◆10月25日研修会の報告

7月26日に続いて2回目です。「自分で決める日本語学習」という青木直子先生の講義と7月26日に協力を依頼した学習記録簿利用の中間報告の予定でしたが、報告の時間が長引き、講義は簡単になってしまいました。

学習記録簿について率直な意見が出ました。主だったものをあげてみます。

「ボランティアに来た時からあったし、今までの仕事上、記録をつけるものだと思っていた。つける必要があるのでは？」 「自分が所属しているグループに記録簿を提案したが採用されなかった。個人的にはやっていこうと思っている。学習記録簿をつけるのは、学習者にとって励みになる。」 「自分たちのグループはマンツーマン形式で学習していてボランティアの方に声掛けをしたが進んでいない。いいだろうという感触はわかる。学習者の中には自分自身で目標も方法もわかっているので必要ない人がいる。」 「学習記録簿には、できるものを書いてもらっている。持って帰ってもらうと持って来ない。時間の最後に今日やったことをまとめるために使っている。自分がやれたことを書くもの。できない人には道具として使っている。前にできていなかったことが今回できるようになっていたら褒めるようにしている。」 「学習者はすごく熱心な人だ。一週目は学習記録簿を一生懸命に書いた。それで終わった。」 「初心者の方には全然ダメだった。母語で書いていた。続かなかった。」 「KFCに一回見学に来た時に学習者が何を書いているのか気になった。他ではあるかどうか知らない。」 「学習記録簿をつけることを頼まれて、自分自身が構えてしまった。」 「学習記録簿を見て初めて自分と一緒に学習している人が他の教室へ行っていることを知った。」 「学習記録簿は支援者にとって支援を見直す材料になるのでとてもいいと思う。」 「学習者はまじめに書いている。でも見ていない。」 「支援を急に任せられた。学習者のノートを見て何をしているか判断したが学習記録簿をみてもっとよくわかった。」

今日の話から、まず「◎書いてもらうためにはどうしたらいいか」を考えて取りくむ、それから「◎書いてあるものをどう活用していくか」を話し合っていく必要があるだろうということがわかりました。まだまだ問題が山積です。引き続きご協力をよろしくお願いします。

(奥 優伽子)

## ◆9月21日 料理交流会「ベトナム料理+日本料理」

9月21日、KFCで学習しているグエン ティ フンさんのお手製のベトナム料理が振る舞われました。日頃ボランティアの方にお世話になっている感謝の気持ちでと材料調達から仕込まずべてしてくれました。こちらこそフルコースの料理をありがとうございました。

ベトナム料理代表「生春巻き」と日本料理代表「手巻き寿司」は各自で作りましたよ。

日曜日だったのでその日に来ていた学習者とボランティアなど17名が参加しました。

---

## ■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

### ◆KFCでのインターンシップを通して

KFCのインターンシップに応募したきっかけはゼミの先生からの紹介でした。研究内容が「外国にルーツを持つ子どもたちとの多文化共生」だったので卒業論文を執筆する際の良い経験となる、と思い応募を決意しました。最初は子どもたちと仲良くなれるかな、勉強を教えられるかな、と不安がいっぱいでしたが初めて教室へ入ると子どもたちが、「新しい先生？名前なんて言うの？」と駆け寄ってきてくれて、不安はすぐなくなり、嬉しかったことを覚えています。しかし、教室は思っていた以上に慌ただしく、要領がわかっていない最初の方は慣れるまでが本当に大変でした。

まず、ここでは学校で日本名を使っている子どもにも本当の名前で呼び合う、というルールがあります。慣れない外国の名前や同じ名前の子がいたり、当時は覚えきれないのではないかと思っていました。しかし、積極的に名前を呼んだり、自分が勉強を教えている子以外の子どもとコミュニケーションをとったりすることでいつの間にか全員の名前を覚えていました。

次に勉強についてですが、まず子どもたちは学校の宿題を持ち寄ってします。宿題の量やペースにもよりますが、時間内に宿題だけで終わってしまうことがよくあります。たまに宿題が終わってしまうと次に何をしてもらったらいいかかわらず、個人ファイルに入っている問題集やプリントを出していました。その日の学習が終わったあと、他の支援者の方に今日の学習でしたことや様子を聞くのですが、他の支援者の方は宿題を早めに終わらせて他のことに取り組ませていました。宿題も大事ですが、学校の学習についていけない子どもたちにとって、宿題を早く終わらせてわからなかったところや、これまでの復習をできるだけ長い時間することが大切なのです。支援者の方は教師経験者など様々ですのでお話を聞いて、次はこういう方法でやってみよう、と考えさせていただきました。今では子どもたちが来る前にその日担当する子の学習記録ファイルにしっかり目を通し、できているところやできないところを把握し、宿題が終わったらこれをしよう、これが終わったらあれをしようという準備ができるようになり、また、それを考えるのが楽しくなりました。同時に、学習記録ファイルが非常に重要だと思うようになりました。学習記録ファイルは、担当者が今日したことを記録するもので、したことを羅列して書くだけでなく勉強の様子やできているところ・できていなかったところ、次回してほしいこと、した方がいいことなどを詳しく書くことが重要です。引き継ぎがうまくいかなければ子どもも勉強のリズムが掴めずなかなか勉強が定着しません。逆に、引き継ぎがうまくいくと、次に何をすべきか、ということが明確にわかり、スムーズに学習をつなげることができます。

こうして私は他の支援者の方々や子どもたちにヒントをもらって慣れていくことができました。気がかりなのは、子どもを見るときに、1人对3人だったりすると1人に対して長い時間を見ることができず、どうしても中途半端になってしまうことです。子どもの学習支援ではこのように人手不足は大きな課題の一つだと思います。大学生が授業の一環でボランティアとして来てくれることがあります。しかしもっと個人的に、このような活動に興味を持っている学生はきっといると思います。そういった人たちへの広報も大事なのかもしれません、と思いました。

また、中学生は特にそうですが、学習支援をしているからには成績を上げることも大切だと思います。なんとなくKFCへ来てなんとなく宿題をして帰る、ではなく、個人に合わせたチェックリストを作るかなにかし、短い期間、長い期間での目標を立てたほうが良いのかもしれない。週に1回で5教科、というのはどうしても難しいところがあります。子どもたちも、勉強しても成績が伸びないよりは、一教科でも目に見えて伸びていることがわかれば、より向上心がでてくるかもしれません。

日々活動を行っている中ではなかなか余裕がなく、一歩引いてみて感じたことがたくさんありました。KFCの子どもたちはみんな、「外国にルーツを持っている」ということがわからないくらい日本人の子どもと何も変わりません。しかし、そう思ってしまうからこそ、学習言語の習得など、生徒がたくさんいる学校ではひとつひとつ定着させていくことは難しいのかもしれませんが。このように、学習支援というのは外国にルーツを持つ子どもたちにとって非常に重要な場だと思います。学力だけでなく、居場所としてもとても良い影響を与える場になっています。ここへ通っている子どもたちも学力や知恵を付けて、高校や大学へと進学し、より良いロールモデルへとになってほしいです。（兵庫県立大学 池本 知左）

9月11日～13日に韓国の釜山に行ってきました。メンバーは金理事長と山根、韓国語の通訳として福田が参加しました。

釜山大学で12日の一日『Migration and Diaspora in Asia ～Diversity and Dynamics～』が行われました。

何を重点にまとめようか一番考えましたが、当日参加の対象者がわからず、文化の違う国の人々に、日本の介護制度が理解されるものなのか、そこで奮闘・苦戦している課題が果たして理解されるものなのか、一番苦労しました。

私自身学者ではないので、研究という事よりか実践の紹介レベルで、この国際シンポの酒のつまみ程度の位置付けで受け止めました。

着付け教室の先生にこの話をすると、「山根さん素敵じゃあないですか。是非着物を着て発表しなさいよ」と自分の事のように喜んでくださいました。「反日感情のある韓国で、着物を着て行ったら目立ちませんかね」と言いましたら「文化交流のためには絶対着物がいいですよ」と言われ、勇気をもって着物を着ることにしました。

当日は釜山大学の講堂で、同時通訳の体制もとられていました。まさに学府。日本から大学生も参加されていました。

プログラムは1セッション3演題で計9演題ありました。私たちは3セッションで金理事長は『KFCによる共生への模索』と称して、この間の取り組みのまとめを20分で発表、私は『多文化・共生の実践を通して感じること』を発表しました。

国際シンポといっても2か国だけでしたのでとっても残念でしたがこれからもこの会が継続することを願います。

前日の夕食に始まり13日の帰路に着くまで韓国のスタッフの皆さんに手厚いおもてなしを受けました。(山根香代子)

---

## ■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

### ◆9月16日しあわせ村遠足

今日はとてもいい天気でした。皆さんの気持ちもこの晴れた天気のように晴れやかでした。今回の遠足はとても楽しんでいました。走っているバスの外を眺めると、綺麗な景色が目に映ります。

77歳の村上さんはいつも親切に私たちに日本語を教えてくださいました。しかし、バスの中で、彼は体調がすこし悪かったようでした。乗車と下車の際、転倒しないように、私は少し彼の世話をしました。人を助けると同時に自分自身も助けられるように喜ばしかったです。また、バスの中で、フフさんと胡さんの年寄りに席を譲るやさしい行動も私が勉強すべきことです。

皆さんと一緒に昼食を食べました。耳に入ってきたのは小鳥の美しい鳴き声と皆さんの笑い声ばかりでした。いつものように音楽のメロディに合いながら、皆さんは踊りはじめました。とても楽しかったです。

理事長をはじめとする皆さんに大変お世話になりました。心から感謝の意を表したいです。今回はいい思い出を作りました。今後とも、KFCと共に明るい未来を迎えます。(長井 美子)※中国語を日本語に意識

### ◆帰国者 カラオケ大会

10月12日の交流会はデイサービスセンターハナの会の場所を借りてカラオケ大会を行いました。参加者32人(内子ども2人)。

カラオケでは、中国や日本の歌が多く休む暇なく歌われました。中で「このカラオケは新しい歌が無いね」と言いながら、少し古い歌を歌う方もいました。更に自分のDVDを持って来て中国の京劇を披露し、それに連れられて京劇好きな何人かも一緒に歌う場面もありました。

一方、カラオケをしない何人かは、いつもの交流会でしている将棋やトランプをするほか、デイサービスにある輪投げなどを使って二人のお孫さんと共に楽しく遊んでいました。

交流会の最後には、皆でカラオケをしながら広場舞などを踊り、場を盛り上げて終わりました。ご参加のボランティアと掃除していただいた帰国者の皆さんありがとうございました。

(呼和徳力根)

## ◆日本のカラオケ

私は、日本のカラオケ店に初めて行ったときは、11年前でした。友達と一緒に、レストランで昼食を食べてから、カラオケの店に行きました。当時、カラオケの歌は全部日本語演歌でした。

日本のカラオケはいつから始まったのか、私ははっきり分かりません。中国のカラオケは私が日本に来た時は、ありませんでした。

先日（10月12日）のカラオケと以前私が行ったカラオケ店とは全然違いました。会場は介護サービスの場所でした。しかし、歌う曲は日本語と中国語の両方がありました。日本語の歌ができない人でも中国の歌をたのしむことができました。自由に歌を歌っていました。

今、カラオケがなんで人気があるのか。その秘密は日常生活の中にいろいろな悩み事やストレスがたまるときに、思い切り歌を歌って、気分転換を図るのにカラオケが一番身近にあるからです。これから、カラオケはますます市民生活の中に定着していくことでしょう。（石垣 深波絵）

---

## ■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ ■■■

### ◆餃子づくりの楽しさ

ある日の訪問介護。中国帰国者の夫婦と、職員K、たまたまKFCに取材に来ていたNHKの記者さん（女性）と4人で餃子づくりをして非常に楽しかった、とKから報告がありました。

小規模多機能型居宅介護八ナでは、中国帰国者1世や2世の利用者が多く、半年以上前に施設で餃子づくりをしたとのことでしたが、私が小規模に移動になってからは、一度もその機会はありませんでした。早速、10月8日（水）に餃子づくりをすることになりました。8日が休みであった中国人職員に出勤をお願いし、主戦力になってもらうとともに（実際、彼女がいなければできませんでした！）、各、帰国者にも声をかけ心づもりをしてもらいました。当日は、普段、水曜日に利用されない帰国者2世の女性も参加してくださり、韓国のハルモニ（おばあちゃん）も交えて、おおいに盛り上がりました。

中国の餃子は、皮から手作りですが、その皮が肉厚で非常に食べ応えがあります。焼き餃子ではなく水餃子で、美味しいので、いくつでも食べられます。中国では、家庭で餃子づくりをするのが普通とのことで、各家庭の味があるそうです。

餃子の皮になる塊と、餃子の中身は中国人職員Rが準備をしてくれました。NHK取材班が見守る中、利用者と職員は、丸く薄く延ばして餃子の皮を作る作業と、その餃子の皮に中身を詰め形にしていく作業を行いました。私が、最も面白く感じたのは、皮を丸く薄くのばす作業です。塊を少し平べったくして、それをまわしながら、専用の棒で薄くのばしていきます。その手早いこと。中国人職員をはじめ、帰国者の皆さんは、簡単に丸く薄い餃子の皮を作り上げていきます。私も挑戦しましたが、丸くならず、四角とかいびつな形になりました。何度か、帰国者の男性Sさんがやり方を教えてくれましたが、元来、不器用なため、簡単にはいきません。しかし、皆さんの、にこにこした笑顔を見ているだけで、こちらまで楽しくなりました。韓国のハルモニも

餃子の皮に中身を詰める作業を楽しそうにされていました。出来上がった餃子は、本当に形はいろいろで、なんだか、あったかい気持ちになりました。きっと、中国の各家庭で作るときも、大人が作る餃子と子どもが作る餃子の形が違っていて、それぞれに個性があり、わいわい言いながら作ったり、食べていたんだろうなと思います。

楽しいし何より美味しいので、また企画したいと思います。今度は、小規模多機能の利用者だけでなく、グループホームの利用者や家族さん、地域の人たちにも楽しんでもらえる機会になればと思っています。(森 佳緒里)

### ◆今年も秋の運動会を行いました

10月28日に小規模とグループホームで運動会を行いました。今年は小規模との合同ということで、担当者は試行錯誤を重ねて当日を迎えました。

開始の時、2名の利用者様が参加しないと言われていましたが、何度か声掛けを行い、20名全員参加することができました。

昨年と場所が変わったこともあり、体操のDVDの使い方がわからず、利用者様を待たせてしまい、雰囲気が悪くなっていましたが、やっとDVDも映りようやく施設長の挨拶で運動会が始まりました。

競技種目は、ボール転がし、玉入れ、輪投げ。ダーツ、旗揚げなど8種目をしました。

個人戦とグループ戦と考えていましたが、グループ分けはうまくいきませんでした。

個人戦では、輪投げは森川さん（小規模、女性）が6命中し、小野さん（グループホーム 女性）が7命中するなど女性の奮闘が目立ちました。

ダーツは米田さん（グループホーム 男性）の900点、木村さんの860点と男性が強さを発揮しました。

旗揚げはなかなか1位が決まらず争奪戦になり最終では1位が5人（許、井上、市川、米田、木村）になりました。

総合では米田孝八さんが優勝となりました。施設長から花束と優勝のたすきをもらい喜んでおられました。

その他の皆様も一生懸命されていました。楽しかったとおっしゃっていました。その言葉を聞いてやってよかったと思いました。（尹 舞）

---

## ■■■ ハナの会 ■■■

### ◆敬老会

デイサービスセンターハナの会の敬老会は9月13日、15日、16日と三日間行われました。大人気の女装したデュエットのほか民族の踊りや魚ツリーゲームなどを行いました。

### ◆あー敬老会の担当！

週1～2回の仕事でまだ慣れてもないのに！

韓国のお海がわれると言う珍島で生まれて日本での暮らし20年。仕事をするなら人生の先輩（お年寄り）様と一緒にいいなーとヘルパーに6年まえになりました。（世界は）一つという名のハナの会には、日本、韓国、中国、ペルー、ベトナム、内モンゴル。利用者も職員も文化や言葉が異なる中で開かれた敬老会。さあーやるしかない！男の相棒が女の衣服と化粧で姉妹になりバイオリン演奏で（愛）歌を心からみなさんに。韓国のチャンゴで踊りと民謡の歌を思い存分満足。日本の炭坑節をみんなで一つになって歌ったあとには。ベトナム語で「雪が降る」独奏。モンゴル風の「黄色シャツ」など独唱が盛り上がったあとは、街のビルの中でなんと魚つりが始まりまし

た。吊り上げた魚をすぐ食べながら（折り紙で作って魚の中に和菓子とかが入っています）仲良くお話をされるのを見てどんな国で生まれどこに暮らしても全てを乗り越えて生きていく人々がもっと好きになりました。（黄 成任）

---

### ■■■ 今後の予定■■■

#### ■日本語プロジェクト

12月21日(日) 12:00～

料理交流会～日本料理を作ろう

於 デイサービスセンターハナの会

#### ■KFC研修会

12月13日(土) 13:30～15:30

「学習者の目標に向けてのカリキュラム作り」

矢谷 久美子（HIA登録日本語講師）

於 KFC

#### ■中国帰国残留邦人帰国者交流事業

12月23日(火) 料理交流会

#### ■KFC研修会（帰国者の日本語教室向け）

11月27日(木) 13:30～15:00

中国「残留日本人孤児」国家賠償訴訟とその後の課題

水野 浩重（中国「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会）

於 朝霧生協会館

#### ■ベトナム人高齢者交流会

11月20日(木) 京都遠足

#### ■年末年始のお休み

12月30日(火) ～1月4日(日)